

日常の中の非日常

アートプロジェクト高崎

ART PROJECT TAKASAKI 2022

番号は裏面の会場案内と共通です。

3 渡辺 香奈 [Kana WATANABE]



高崎市出身。
2003年慶應義塾大学総合政策学部卒業後、2005年に慶應義塾大学大学院政策メディア研究科修了。
緻密な花の絵やスペイン留学で磨かれたデッサン力を生かした猫の木炭デッサンなどを発表している。

7 馬場 美桜子 [Mioko BABA]



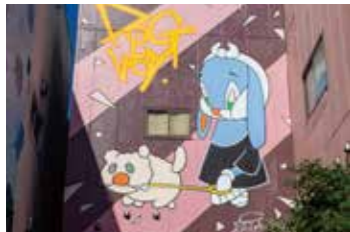
1991年生まれ。
多摩美術大学絵画学科油画専攻。大学・大学院ともに首席で卒業。植物や花を写真的に拡大して画面を埋め尽くすように描き、植物が枯れて死んでいく生と死の境目の姿を克明に描き出している。

11 キール・ハーン [Kjell HAHN]



1978年アメリカ・ミズーリ州生まれ。2001年トルーマン大学卒業。22歳で初来日し、2013年からは群馬県藤岡市鬼石でアーティスト・イン・レジデンス「シロオニスタジオ」を経営する。同スタジオには、これまで30か国から約200人の外国人アーティストが滞在した。第25回(令和2年度)群馬県国際交流賞受賞。

15 Aruta Soup



17歳で渡英、イーストロンドンにおけるグラフィティ、クラブカルチャーを吸収しつつ現在のスタイルを構築する。2012年に帰国後渋谷西武百貨店における展覧会、台湾、香港、中国本土での大型個展、数々のアートフェアへの参加、Medicom Toyとのコラボレーション等、国内のみならず世界各地に壁画を制作するなど多岐に渡って活動している。

19 MOTOR



1993年埼玉県生まれ。鹿児島県指宿市在住。自動車やバイクへのエアグラフィートでキャリアをスタートし、現在は壁画とキャンパス画の制作がメイン。指宿市で地域を巻き込みアートで町おこしを目指す団体「TOMOSHIBI」としても活動。地域を巻き込み、汚れた壁を活かして壁画を制作するアイデアが、壁画地方創生政策アイデアコンテスト2020で地方創生担当大臣賞を受賞。

23 渡辺 おさむ [Osamu WATANABE]



2003年東京造形大学デザイン学科卒業。スイーツデコの技術をアートに昇華させた第一人者として数々のTV番組にも注目される。本物そっくりのカラフルで精巧なクリームやキャンディ、フルーツなどを精巧な作品は海外でも注目を集め、中国、インドネシア、イタリア、ベルギー、トルコ、アメリカ、韓国などでも個展が開催され話題を呼ぶ。

4 英 [Hana]



カラフルポップな作品が話題となり注目を集めた人気アーティスト。Apple社でのワークショップをはじめ多くの企業からオファー多数。高校生ときのひとりで旅がきっかけで、自身の人生観を大きく変えた。カラフルポップな色遣いで、アートを通じ、愛と幸せを表現している。

8 金井 訓志 [Satoshi KANAJI]



1951年群馬県生まれ。太平洋美術学校で学ぶ。独立展、安井賞展等出品、受賞を経て2002年文化庁在外研修員としてイタリアに留学。作品收藏は文化庁、高崎市美術館、Le Casino Blankenberghe等。その他個展、グループ展、アートフェアへの参加など多数。

12 鮫島 大輔 [Daisuke SAMEJIMA]



1979年兵庫県尼崎市生まれ。2005年多摩美術大学 美術学部大学院美術研究科 博士前期課程 絵画専攻修了。球体や使い古されたネオンサインなどの特殊な支持体に風景を描き、日常のありふれた風景を見るべきものに変換する作品を制作。国内外で展覧会多数。

16 Kensuke Takahashi



横浜出身在住の画家、イラストレーター、ペインター。幼少より独学で絵を描き始め、2005年頃から本格的に活動を開始する。確かな描写力と自由な発想力で、あえて画風を決めずに描く。自身の作品制作の他、数々の音楽フェスやイベントでのライブペイント、企業への広告イラスト提供、ミュージシャンへのジャケットデザイン提供など、活動の幅を多岐に広げている。

20 久村 卓 [Taku HISAMURA]



1977年東京都生まれ。2001年多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業。2003年、偶然聞くことになった藤堂塾の講義に感化され発表活動を開始。ハンドメイドからDIYまで、美術の周縁に位置すると考えられる素材や技法を積極的に選び、消極的な手つきで変化を与え、美術制度によってかろうじて成立するような作品を制作。

24 山本 篤 [Atsushi YAMAMOTO]



1980年東京都生まれ。多摩美術大学絵画学科卒業後、2003年に単身ベルリンへ渡り映像制作を始め、これまでに200本以上の作品を制作している。現代社会が抱える問題を切り口にしたフィクション作品からごく私的なドキュメンタリー、コント的な実験作品など多彩な映像作品を意欲的に制作している。

1 大竹 夏紀 [Natsuki OTAKE]



1982年群馬県富岡市生まれ。
2008年多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。
染色の伝統技法である蠟けつ染めで、絹布に染料で絵画を制作、国内外で作品発表をしている。

5 GOSPEL



絵や漫画に興味を持ち、暇があれば絵を描く幼少期を経て、1992年にヒップホップ・カルチャーやグラフィティに強い衝撃を受け、独学で様々な技術を学びオリジナルのスタイルを確立する。現在はニューヨークでの個展を成功させ、ヒップホップの枠を越えて多くの人々に支持されている。

9 HITCH



京都出身、兵庫育ち、大阪拠点のペインター。「多様性」をメインテーマに、リアリスティックな人物・動植物といった有機的モチーフを組み合わせたスタイルで、これまで巨大な壁画から小さなキャンバス作品で制作を続けてきた。コミッションワークとしてはPumpee, SIRUPといったミュージシャンのアートワークや、国内外の企業への作品提供・壁画制作を行う。

13 Shinjiro Tanaka



点や線など原始的なモチーフを用いて自らの死生観や人間の持つ可能性などを主題として表現する。ダンサーとしての経験からその作品には音楽的リズムを伴った構造や色彩など躍動感が現れる。1985年LA生まれ。2008年慶應義塾大学卒、電通を経てNYへ移住。帰国後、アートエージェンシーTokyoDexにてアートコーディネーターとして壁画事業に携わり、2019年にアーティストとして独立。

17 TAKERU IWAZAKI



身近にあったボールペンを絵筆とし、様々なカルチャーに影響を受け創作活動を開始。作品制作を中心に個展、ライブペイント、コミッションワーク、壁画制作など多岐に渡る活動を展開、日々実験と発見の追求を楽しんでいる。その手によって生命を与えられた有機質と無機質は緻密で流麗な線となり、絡み合いながら無限に展開していく。

21 川島 一恵 [Motoe KAWASHIMA]



1984年群馬県富岡市出身。2007年宝塚造形芸術大学映像造形学科卒業。「小さいものが寄り集まってカタチをつくっていく。つながっていないようで、つながっている」をテーマに平面作品やインスタレーションを展開している。

24 YOSHI TRAVEL FILMS



1989年生まれ。神奈川県出身。自分の知らない世界を、旅、アート、音楽、ライフスタイルをテーマに映像と写真で表現している。ニュージーランド、メキシコ、アメリカなど世界中のミューラル、グラフィティ等のストリートアートプロジェクトのオフィシャルビデオグラフィアー、フォトグラファーとして参加。国内ではドキュメンタリースタイルをメインに、プロモーション、コマーシャル、ミュージックビデオ等の制作をしている。

2 MINIMIAM



ミニミアムは、パリ在住の日仏カップル、井田晃子とピエール・ジャヴェルが、2002年から作り続けている写真シリーズである。ともにフードカメラマンでありこよなく食を愛する二人が、小さなフィギュアたちを通して、子供の頃から好きだったミニチュアの世界を視点に食べ物や日々のオブジェを舞台に様々なストーリーを繰り広げてゆく。彼ら独特のユーモアのセンスや色彩感が、世界中のファンを魅了している。

6 高橋 匡太 [Kyota TAKAHASHI]



1970年京都府生まれ。1995年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。東京駅100周年記念、京都・二条城など大規模な建築物のライティングプロジェクトを多数手がける。多くの人とともに作る大規模な参加型アートプロジェクトにも数多く参加している。

10 ABEBE



1991年埼玉県所沢市出身。
2013年geisai#18の入賞から活動を始め、壁画やライブペイントを中心にクラブイベント、野外フェスなど地域を問わず各地でバイタリティあふれるペイントを行う。

14 明田 一久 [Kazuhisa AKETA]



1971年高崎市生まれ、高崎市在住。前橋市内のアトリエで制作している。1997年大阪芸術大学芸術専攻科美術専攻彫刻修了。石との出会いは大学時代。選考を迷った末、石に決めた。地球の欠片を扱えるという雄大な、そして強さに惹かれたからだ。当初は在学中だけ石彫を学べたという気持ちだったが、結局、石彫刻が面白くはまってしまい現在に至る。

18 オオヤ サヤカ [Sayaka OYA]



1984年10月29日生まれ。ゲームとアニメとレモンが大好きな画家。アパレルのデザイナーとして勤務する側、絵を描き続け2015年に画家として独立。ソーシャルをテーマに制作を行い、風景や植物、人体を好んで描くことが多い。映画やドラマへの作画提供や美術監修、CM出演など多岐に携わる。

22 親指姫(下寺孝典+丹羽優太)



[Thumbelina (Takanori SHIMODERA+Yuta NIWA)]
屋台研究家の下寺孝典と画家の丹羽優太によるユニット。2021年結成。
二人の携わった展示
2019年
「片岡真実キュレーション「K U A D A N N U A L 2019宇宙船地球号」」(旧京都造形芸術大学/東京)
2021年
「やんばるアートフェスティバル2020-2021 山原知新」(やんばるアートフェスティバル実行委員会運営事務局/沖縄)
「たえて日本画のなかりせば 上野公園編」(東京都立上野恩賜公園)
「STREET MUSEUM 2022」(東京ミッドタウン)
「TOKYO MIDTOWN AWORD 2021」(グランプリ受賞/東京ミッドタウン)

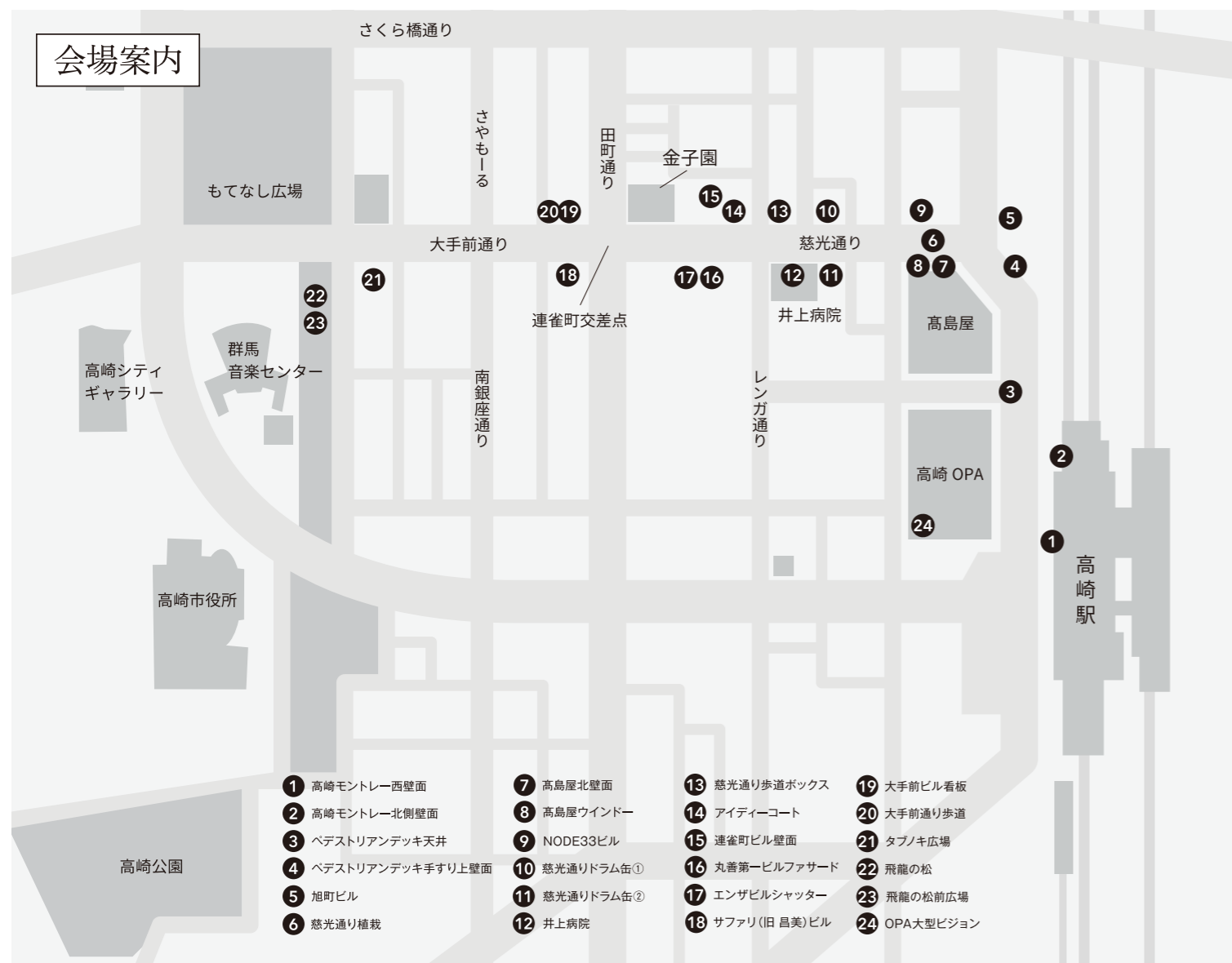
ART PROJECT TAKASAKI

高崎の街がアートであふれる、アートプロジェクト高崎(APT)の季節がやってきました。私たちにとって見慣れた街のそこかしこで、個性あふれる作品群が光を放つ秋の日々が始まります。

"街"は私たちの日常そのものですが、そこに"アート"が入り込んだ途端に非日常の色を帯び始めます。APTでは、住み慣れた高崎の街を歩きながらふと作品に出会い、その創造のエネルギーを浴びて、一瞬にして非日常に入り込むという貴重な経験を楽しむことができます。

日常と非日常を行き来させ、見る人の心に揺さぶりをかけることができるのは、全てのアートに共通する力ではないでしょうか。

今回のAPTでは、26人のアーティストが存在感あふれる作品を披露しています。私たちが生活を営む街(ストリート)と一つ一つのアート作品とが連結して響き合う"ストリートアート"の魅力を、心ゆくまでお楽しみください。



- ABEBE
- ARUTA SOUP
- ATSUSHI YAMAMOTO
- DAISUKE SAMEJIMA
- GOSPEL
- HANA
- HITCH
- KANA WATANABE
- KAZUHISA AKETA
- KENSUKE TAKAHASHI
- KJELL HAHN
- KYOTA TAKAHASHI
- MINIMIAM
- MIOKO BABA
- MOTOE KAWASHIMA
- MOTOR
- NATSUKI OTAKE
- OSAMU WATANABE
- SATOSHI KANAI
- SAYAKA OYA
- SHINJIRO TANAKA
- TAKERU IWAZAKI
- TAKU HISAMURA
- THUMBELINA
(TAKANORI SHIMODERA+YUTA NIWA)
- YOSHI TRAVEL FILMS

Art Project Takasaki 2022

【アートプロジェクト高崎】(略称 APT)

【期間】 2022年10月29日(土)ー11月30日(水)

【会場】 高崎中心市街地、高崎モントレー、丸善第一ビル、慈光通り、大手前通り 他

【主催】 高崎アートインキュベーション推進会議

【共催】 高崎市、一般社団法人高崎観光協会、公益財団法人高崎財団

【後援】 ラジオ高崎

APT
ART PROJECT TAKASAKI

【お問い合わせ先】

高崎アートインキュベーション推進会議(ラジオ高崎内)
〒370-0849 群馬県高崎市八島町265番地 TEL.027-322-9195
<http://taka-art.jp/2021/>



日常の中の非日常

アートプロジェクト高崎

2022 10.29 sat – 11.30 wed

会場：高崎中心市街地、高崎モントレー、連雀町ビル、慈光通り、大手前通り ほか

主催 高崎アートインキュベーション推進会議

共催 高崎市、公益財団法人高崎財団、一般社団法人高崎観光協会

後援 ラジオ高崎

お問い合わせ ラジオ高崎 〒370-0849 高崎市八島町265 Tel.027-322-9195

APT
ART PROJECT TAKASAKI